



同じテーブルの方々と



講演後の質疑・意見交換

(2) WaterLinks 関係者との意見交換

今回の WaterLinks には日本の水事業者の参加がなかったが、本協会は、日本の水事業者の更なる国際協力、水ビジネス展開をサポートする WOPs スキームにおいて水道協会が果たし得る役割を調査するために、WaterLinks 事務局とミーティングを行った。WaterLinks の見解としては、日本は WOPs において理想的な Mentor であり、本協会が日本と海外の水事業者間の橋渡し役を担うことに関しては、日本の事業者の一層の WOPs 参入に向けて有効であるとのことであった。

ただし、WOPs 活動に伴う WaterLinks からの支援金は現状では潤沢でないため、Mentor 側（つまり日本側）において国内組織（例えば JICA、厚労省、民間企業等）と調整のうえ資金を調達してほしいという話があった。このことから、WaterLinks が組織として完全に成熟していないということも考えられるため、今後の本協会としての活動展開に当たっては、他の国内機関の意見等も参考にしながら、さらに調査・検討していく必要があると考える。



WaterLinks 事務局とのミーティング



マッチメイキング・セッション

(3) WOP マッチメイキング・セッション

2 日目の閉会式の後、予め参加登録した団体のみによる、水事業者どうしの技術連携に向けた情報交換のためのセッションが行われた。本来は技術を提供する側、される側の水事業者による

話し合いの場であるが、今回は日本の水事業者の参加がなかったこと、また、本協会が WOPs スキームにおいて果たし得る役割を調査するために、我々もこのセッションに参加した。フィリピン（イロイロ市）とベトナム（ラムドン省）の事業者が日本からの技術支援（無収水管理）に興味を示したため、現地の水道の状況等に関しヒアリングによる情報収集を行った。

この2つの技術支援要請に関する情報は国内の水道事業体に提供し、支援活動の意向調査を行う予定である。併せて、今後の本協会の WOPs に係る活動方針についても検討を進めていくこととする。

(4) 技術視察

3日目は2コース（①マニラ・ウォーターの下水処理、②Maynilad による無収水管理）の技術視察が行われ、我々はマニラ市西部に給水している民間企業である Maynilad のツアーに参加した。

Maynilad 事務所にて無収水管理の各種取組に関する講義があった後、フィールドで漏水探査機器の実演が行われた。体系化された取組や最先端の使用機器等、非常に高度なレベルにあることに驚かされた。

Maynilad は、本格的な漏水探査・修繕に取りかかった 2007 年から 2013 年の 6 年間で、以下のような成果をあげている。

- 200,000 箇所の漏水を修繕
- 1,090km の水道管を更新
- 700,000 個の水道メータを交換
- 無収水が 70 万 m³/日減少
- 給水収益が 127%増加

しかし、給水区域の無収率は依然 35%と高く、また目標値は 20%ということであった。

一方、Maynilad はウォーター・アカデミーという独自の教育・訓練組織を 2011 年 10 月に設置しており、上下水道関係者や一般市民を対象とした各種研修等を実施し（2013 年には 2,000 名以上が研修を受講）、フィリピンの上下水道技術の向上や顧客教育に力を注いでいる。



Maynilad 技術視察

4. フォーラムに参加して

初めて参加する「国際協力」をテーマとした会議であり、講演や各種イベントで接するアジア各国の方々の話から、水という資源の重要性、途上国における水問題の深刻さや早急な対応の必要性が直に感じられ、興味深かった。

WaterLinks とのミーティングでは、この組織の運営上の課題（財政面の不安定さ等）も垣間見えたことから、今後 WaterLinks とのパートナーシップを強めていくにあたってはさらに調査を行う必要があるように感じられた。

また、本協会の国際研修で連携している PERPAMSI（インドネシア水道協会）の幹部等とも、インフォーマルなコミュニケーションを通じて今後の活動等についての互いの考えを確認するとともに、共通認識を得られたことも収穫であった。

いずれにしても、日本が行う国際協力活動の中で、事業者が単独で話を進めるのが難しい場合等において本協会が必要な情報収集やサポートを行っていくことは、特に、今後新たに国際協力活動・海外水ビジネスに参入しようとする事業者にとっては大きな助けとなることは間違いないため、今後は、会員の要望等も踏まえつつ、本協会が効率的かつ効果的に貢献できるスキームを検討していきたい。

以 上